

提案等に対する取り組み状況について

	質問事項・意見等	回答欄	担当課
1	市の情報を広く周知する方法を検討してほしい（情報発信についての辺りを問題と捉えているのか）。	市民意識調査の結果等を考慮しながら、多くの市民の皆さまにとって重要と考えられる情報について、市報や新聞掲載等に加えて、地域の方々が望む情報が入手しやすいように、積極的な情報発信に努めるとともに、先日、開設された情報交流館において、様々な情報を幅広く提供していきたいと考えております。	復興政策部 復興政策課
2	（情報発信について）職場（会社）等を活用するという方法を提案したい。	御提案の内容は非常に有意義であると考えられますので、御提案を踏まえ、事業所等と関係の深い商工会議所や観光協会との連携方法や発信する情報の選定について検討して参りたいと考えています。	復興政策部 復興政策課
3	文書を出すだけでなく、住民サイドに飛び込んで意見を聞くべきである。住民サイドに立って住民意識を喚起するように、行政と住民が協働していくべきではないか。	<p>復興まちづくりにあたり、住民の意見や課題を把握することは重要でありますことから、平成25年度から「東部地区復興まちづくり」として、湊・渡波地区において住民懇談を行ってまいりました。</p> <p>平成26年度においては「西部地区復興まちづくり」として、釜・大街道地区において住民懇談を行っており、引き続き、機会をとらえて住民懇談等を行い、住民意識の喚起や協働のまちづくりを推進してまいりたいと考えております。</p> <p>また、震災後休止していましたが、まちづくり懇談会を平成25年度から再開しており、平成26年度は6回開催し、183人の方々と市政の課題や要望等について懇談を行いました。今後も機会を設けて町内会や各種団体等の方々と懇談会を開催してまいります。</p>	復興政策部 地域協働課 総務部 秘書広報課

4	<p>復興住宅については着工済以外のところはイメージ図もなく、全く分からない状況なので、目に見えるものを早く出してほしい。4千戸の公営住宅が埋まるのか、また、完成まで待ちきれない人が別のところに移ってしまうのではないかと心配である。</p>	<p>復興公営住宅入居希望者に誤解を与えないよう、設計が固まった段階で、間取り図や外観等のイメージを公表していますが、早期のイメージ図等の公表に努めてまいります。</p> <p>復興公営住宅事前登録の結果から、整備計画戸数を4,000戸から4,500戸に変更しております。地域により、入居希望者が計画を下回る住戸もありますが、空き住戸のないよう事業を進め、待ちきれず他市町村へ移転する方が出ないように可能な限り早期の住宅提供に努めてまいります。</p>	<p>復興事業部 復興住宅課</p>
5	<p>震災後の行政批判が高まる中でも、行政と協働するように努めてきたが、たらい回しや、提案自体を否定されたこともあるので、この理念のとおり協働できるようにしてほしい。</p>	<p>「絆と協働の共鳴社会づくり」に向け、様々な主体により支え合う地域社会をめざし、協働を実践していく必要がありますことから、有意義な提案については取り上げてまいりますので、御理解願います。</p>	<p>復興政策部 地域協働課</p>
6	<p>(複合文化施設について)</p> <p>多くの市民が利用してもらえるような施設を建ててほしい。また、石巻は水産都市であることも構想に加味してほしい。</p>	<p>複合文化施設については、現在、基本計画の策定に向け、市民の代表による市民懇談会を設置し、文化・芸術関係団体の代表者や有識者等の皆様にご意見を伺いながら、施設規模及び内容等について検討しております。</p> <p>また、基本計画(案)については、パブリックコメントの実施を予定しており、今後も市民の皆様のご意見を伺いながら、複合文化施設の早期完成を目指していきたいと考えており、「水産都市であること」につきましては、石巻市の水産業の歴史等についての常設展示や特別展示等を視野に入れながら、今後、施設の運営方法も含めて、検討してまいります。</p>	<p>教育委員会 複合文化施設 開設準備室</p>

7	<p>各地域の宝（雄勝は硯、北上はヨシ原、牡鹿は金華山、鯨文化）を活かした地域づくりに期待したい。</p>	<p>（雄勝）</p> <p>産業観光の拠点として、雄勝硯伝統産業会館を再建し、伝統と歴史ある雄勝硯の展示・製作体験・販売を行うとともに、雄勝地域の海や山の恵まれた自然や豊富な食材を活かした、交流を育む地域づくりを推進してまいりたいと考えております。また、「書」の文化を支えた「文房四宝」と呼ばれる筆、紙、墨、硯の各産地間の交流を深めることも継続してまいりたいと考えております。</p> <p>（北上）</p> <p>北上川のヨシ原は、震災に伴う地盤沈下や成育環境の変化により、震災前の約半分の面積に減少しました。震災後4年経過し徐々に成育面積は回復してきております。</p> <p>現在、国土交通省による堤防の復旧工事が行われておりますが、ヨシ原の生育に配慮した施行方法を取り入れるなど、保全に努めております。</p> <p>市といたしましても国土交通省をはじめとした関係機関と連携しながら、ヨシ原の生育を促すこと、またヨシ原の活用について検討してまいります。</p> <p>ヨシ原の保全については地域住民の協力も不可欠なことから、地域住民を巻き込んだ活動を検討してまいります。</p> <p>（牡鹿）</p> <p>金華山への玄関口である鮎川地区観光棧橋付近において、県が整備する防潮堤に囲まれた部分を嵩上げた上で、環境省が整備するビジターセンターを含め、おしかホエールランド、商業者のテナントや自主再建エリア、イベント広場</p>	<p>各総合支所 地域振興課</p>
---	---	--	------------------------

		<p>等の施設を集積して整備を進め、捕鯨文化の伝承と観光振興を図ることとしています。</p> <p>金華山については、被災した参道を黄金山神社より寄附を受けた上で、市道として整備することとしており、休憩所については、平成27年度に建設に着手することとしております。</p>	
8	<p>市と地域のやり取りが少ないように感じられたので、町内会などでも積極的に関わるようにしてほしい。また、市も地域の意見をレールに乗せる仕組みを構築してほしい。</p>	<p>これまで、各総合支所においては、地域の現状や課題を把握するため、復興事業の説明会等において、住民の方々と直接お話し合いを行ってきております。復興事業が本格化していくことから、このような機会がこれから増えていくと考えられますので、各総合支所において、まちづくり協議会等を通じて、しっかりと住民の皆様のご意見をお聴きしていきます。</p> <p>また、各総合支所の次長は復興推進監を兼務しておりますが、昨年度は8回、今年度は5回にわたり復興推進監会議を開催し、各総合支所から地域の現状や課題を議論する場としてきました。今後も、復興推進監会議において、地域の意見をしっかりと受け止め、対策を議論して参ります。</p>	<p>復興政策部 復興政策課</p> <p>各総合支所 地域振興課</p>

9	<p>石巻駅周辺の交通混雑緩和策について</p> <p>①中里地区と連結する跨線橋建設</p> <p>②大型駐車場の建設</p>	<p>①現在、田道町一丁目地区と南中里地区を跨線橋で結ぶ、都市計画道路「七窪蛇田線」の整備を進めております。</p> <p>本路線は、今年1月に宮城県から事業認可を取得し、平成30年度末の完成を目指しております。</p> <p>本路線の整備により、水押踏切の交通量が減少し、市立病院周辺の交通渋滞緩和につながるものと考えております。</p> <p>②病院利用者及び関係者用（公用車含む）として約200台分の立体駐車場を新市立病院西側に整備することとしており、病院利用者の利便性が高まるものと考えております。</p>	<p>建設部 石巻駅周辺整備プロジェクト推進室)</p> <p>総務部 庁舎整備推進室</p>
10	<p>絆づくりプロジェクト</p> <p>①市民団体等から出されている各種要望には「できる」「できない」に係らず、必ず「ていねい」に回答してほしい。聞きっぱなしの無回答が不満と市政不信を招いている。</p> <p>②職員のマンパワー不足が説明不足や計画遅延等にあられ、市役所と市民の距離を遠くしている。また、総合支所の権限が限られているため、即答が得られないことに市民不満が多い。機構改革やその他の対策について伺</p>	<p>①東日本大震災以降、市民団体、地域住民の方々等から、様々な御要望を頂戴しており、真摯に検討を行って参りました。東日本大震災から4年が経過し、復興のステージの変化と合わせて、住民の方々の要望も変わってきておりますことから、引き続き御要望については真摯に検討し、丁寧な回答に努めて参ります。</p> <p>②東日本大震災以降、復旧・復興事業を最優先に実施して参りましたが、現時点でも復興に関わる人員だけで約90人のマンパワーが不足している状況にあります。また、頂戴した御要望や御質問には、できる限り早急に回答するよう努めておりますが、国や県、その他の関係機関との調整を経なければ回答できないものもあり、回答が遅くなることについて心よりお詫び申し上げます。</p>	<p>復興政策部 復興政策課 総務部 秘書広報課</p> <p>復興政策部 復興政策課</p>

	<p>う。</p> <p>③「協働のまちづくり」への意識を高め、具体的な行動を起こしてもらうため、職員はもっと積極的に市民の中に出かけて行ってその「しかけ」をつくるべきと思うがいかがか。</p>	<p>マンパワー不足につきましては、自助努力として任期付職員の採用や職員の再任用を積極的に行っておりますが、他の自治体等からの職員派遣が必要不可欠でありますことから、引き続き国や県に対して職員派遣の要望をしております。</p> <p>また、機構改革につきましては、復興ステージの変化に対応し、復旧・復興事業の進捗に合わせた機動的な組織体制を構築しております。</p> <p>③これまで、総合支所の職員のほか、復興政策部や復興事業部の職員を中心として、住民懇談会や住民説明会には可能な限り参加してきたところですが、復興事業の本格化やニーズの変化等を積極的に聴き取るため、積極的に住民懇談会や住民説明会に参加していくとともに、住民の意見を取り入れていけるように努力しております。</p>	<p>総務部 人事課</p> <p>財務部 行政経営課</p> <p>復興政策部 復興政策課</p>
--	---	---	--